

2017 megumi に乗ってびわ湖の中をのぞいてみよう!! ①

2017年度の環境学習船 megumi による小学生親子環境学習は7月の工学系と8月の生物系の2回に分けて行います。7月25日(火)に開催された工学系は水中ロボット・水中ドローンの操作見学とソーラーボート作成がテーマで、保護者21名、児童26名の参加です。講師、スタッフとともに megumi に乗船して9時45分に大津港を出航しました。天気は曇り空で、工作で作ったソーラーボートが動くかちょっと心配です。



オリエンテーションの後、立命館大学の川村貞夫先生から水中ロボットの話を聞かせてもらいました。湖底からの廃棄物や泥の回収、葛籠尾崎の湖底遺跡の調査などの実例の映像を交えてびわ湖での水中ロボットの働きを説明してもらいました。

続いて近江デジタルファブリケーションズの平山さん(びわ湖トラスト理事)から平山さんの制作した水中ドローンの話を聞きました。子供たちは実際に水中ドローンを各自手に取って見せてもらい、目を輝かせていました。

両先生には子供たちからの活発な質問にも丁寧に答えて頂きました。

先生のお話を聞いているうちに船は琵琶湖大橋をくぐり北湖へと進んでいました。船中でははいよいよお待ちかねのペットボトルを利用したソーラーボートの作成です。子供たち一人一人全員に作ってもらいます。ソーラーボートの部品を配ってもらい組み立て開始です。説明図を見ながら進めて行きました。スタッフの手助けを求める児童もいましたが、出来る限り独力で頑張りました。



船は北湖を航行して沖の白石、多景島を巡りました。工作の手を止めて琵琶湖汽船の中村さんから説明を聞きました。参加者から沖の白石や多景島をこんなに間近に見るのは初めてという声が聞かれました。船が船首を巡らせて沖島へと進む頃にはソーラーボートが次々と組み立てられました。



デッキに出てプロペラが回るかテストしましたが、生憎の曇り空で日照が足りずスクリューはなかなか回ってくれませんでした。しばらくして空がわずかに明るくなるとスクリューが回り出しました。タイミングが合ってスクリューが回るのを確かめられた子供はうれしそうです。



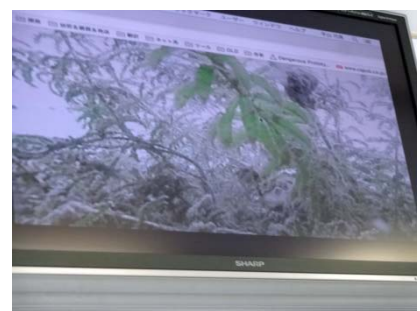
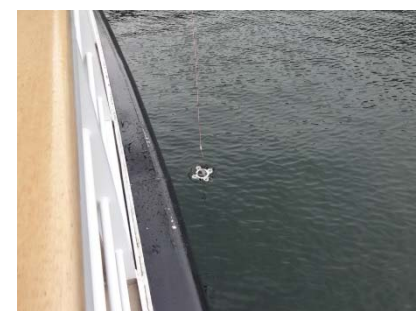
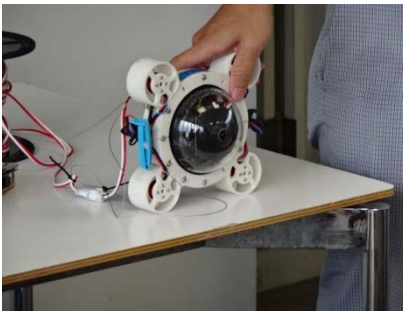
昼食を取り終わった頃に船は沖島に到着しました。沖島上空の雲は厚く残念ながら予定の沖島でのソーラーボートのテスト航行は中止とし、1時間あまり沖島を自由散策しました。参加者の皆さんは上陸後、途中ちょっと小雨に見舞われましたが島の案内図を参考に思い思いに島内を回り、船に戻りました。



船に戻ると水中ロボットと水中ドローンによる湖中観察です。川村先生の水中ロボットは入手したばかりとのことでびわ湖では初航海だそうです。学生さんが操作して航行する様子を見せてくれました。



平山さんからは湖中に沈めた水中ドローンから送られてきた映像を見せてもらいました。水草やカメラに近づいてきた魚がはっきりと写し出されました。



続いて子供たちは順番にスマホを装着したゴーグルを使い、水の中で物を見る疑似体験をさせていただきました。水中ドローンからスマホへ送られてくる映像の視野とゴーグルの向きが同期しているので、まるで水中で見回すように見えるのです。一人30秒なので子供さんがカウントダウンして時間を計ってくれました。運よく魚に出会えた子供たちもいました。30秒間でしたが子供たちは十分楽しんだようです。

14時50分に沖島を離れ、大津港への帰途につきました。船内で立命館大学の熊谷先生(びわ湖トラスト理事)からびわ湖について色々教えてもらいました。また「ミクロの生態系」というビデオを見てびわ湖に生息するプランクトンについて学びました。

16時に大津港に戻りました。下船後集合写真を撮り解散しました。



参加者からのアンケート結果では、参加された保護者21名全員から「とても良かった・良かった」、また「知人に勧めたいと思う」との回答を頂きました。児童の回答者25名全員からも同様の回答がありました。また児童26名中25名が「また来たい」と答えてくれました。曇り空でソーラーボートの試走はできませんでしたが好評裡に無事イベントを終えることが出来ました。

最後に本行事を共催、助成頂いた公益財団法人平和堂財団に厚く御礼申し上げます。

(藤田理事 記)